

西日本における組織移植医療の現状と課題

(1) 国立循環器病研究センター 移植部

小川真由子⁽¹⁾ 藤田知之⁽¹⁾ 福嶋 教偉⁽¹⁾ 中谷 武嗣⁽¹⁾ 北村惣一郎⁽¹⁾

日本の組織移植における組織とは、心臓弁・血管、皮膚・骨・靱帯・臍島・羊膜等があり、いずれも救命及びQOL改善のために有用である。しかし、日本における組織移植は臓器移植とは一線を画し、日本組織移植学会（以下JSTT）ガイドラインに則って東・西日本組織移植ネットワークのもと各組織バンクが連携する体制で実施されている。全国対応を行う事は人的及び経費の面から困難であり、JSTT認定組織移植Co.の数も十分とは言いがたい。また、摘出もバンク所属（連携）施設の医師が行う事から、摘出対応地域を限定せざるを得ない。これらの状況を打破するきっかけとすべく、心臓弁・血管バンク事業実施施設であり、且つ西日本組織移植ネットワークの拠点施設である国立循環器病研究センターでは、昨年度より厚生労働省科学研究費補助金交付事業として、組織の公平な供給体制構築のための基盤構築に向けた研究を開始した。昨年度、当近畿救急医学研究会参加者を初めとする医療従事者、胸部外科医師、一般市民を対象としたアンケートを実施したので、その結果と併せて報告する。医療従事者対象アンケートの結果、組織移植の認知度は約6割にとどまっていた。提供協力意志を多くの医療従事者が有している事が示された一方で、一般市民からの要望と同様組織移植についての情報が少なく、現場から情報への要望がある現状が明らかとなった。

.....